

“高知県医療勤務環境改善支援センター”

『勤務環境改善マネジメントシステム』モデル医療機関の取組事例

◇モデル医療機関名 医療法人岡村会 岡村病院（支援した期間 H27年11月～H29年3月）
・主たる医療機能 急性期機能 ・病床数 145床 ・職員数 114名

医療機関が手順を踏んで計画的・継続的・自主的に勤務環境改善に取り組むために、国がつくっている仕組みのこと。

○取組に至るまでの経緯

『勤務環境改善マネジメントシステム』を導入して勤務環境改善を行うモデル医療機関の募集に応募し、選定会を経て、H27年10月に高知県で初めてモデル医療機関に選ばれました。

○勤務環境改善マネジメントシステムの導入

院長による方針表明の後、取組の中心となる体制の整備を経て、国が示している「現状分析シート」を基に作成したアンケート調査を全職員に対して実施しました。

その結果等をもとに課題の抽出を行い、改善すべき項目を具体的にとらえて、取組を進めました。

○主な取組事例

<領域Ⅰ：働き方・休み方改善>

●時間有休制度、リフレッシュ休暇の導入

- ・これまで、1日又は半日単位でしか取れなかった有給休暇を、1時間単位で取得できるように変更するとともに、リフレッシュ休暇を新たに導入。
- ・子育て世代の職員が子どものことで休暇を取りやすくなったと好評を博している。

<領域Ⅱ：職員の健康支援>

●腰痛、肩こり対策として、体操や運動を行う

- ・腰痛予防講習を受けた理学療法士による、誰でも取り組みやすい「腰痛・肩こり対策体操」の研修を実施。
- ・研修を受けた職員からは好評だったが、研修を実施する時間に仕事の都合がつけにくい職員が多く、研修のタイミング、頻度が今後の課題になっている。

<領域Ⅲ：働きやすさ確保のための環境整備>

●衛生材料の一部ディスポ化に取り組む

- ・まずはOPE室で綿球を既存のものとディスポ製品を併用して使用。
- ・その結果が好評だったため、職員の要望により徐々に品目を増やしていている。

○センターの支援終了後も、職員の要望で改善されたことがあります！！

センターの支援はH28年度で終了しましたが、その後も勤務環境の改善についての病院の自主的な取組は続いています。「自分たちで変えていく」という意識は広がりを見せ、職員の要望が出やすくなりました。看護師の制服をより機能的なタイプに変更するなど、さらに改善が進んでいます。

勤務環境の改善は、コスト等の問題もあり全ての課題にすぐに対応・改善できるとは限りませんが、優先順位をつけて継続して取り組んでいくことが大切です。

